

ウェッブ氏直訴に意義

米大統領選 候補に浮上 軍幹部に影響も

【平安名純代・米国特約記者】稲嶺進名護市長が、次期米大統領選挙の民主党候補として出馬する可能性が浮上しているジム・ウェッブ元上院議員(68)に直接訴えた意義は大きく、今後の展開が注目される。

(1面参照)



ウェッブ元米上院議員

ウェッブ氏を中心に、辺野古新基地建設計画を見直すよう国防総省に圧力をかけてきた米上院軍事委員会では、昨年12月末の仲井真

弘多知事による埋め立て承認は、「予想外」(レビン上院軍事委員長)と驚きを持って受け止められた。レビン氏は、稲嶺氏側から面談要請を受けているものの、本紙に対し「今週は法案集中審議で日程がぎっしり埋まっており、物理的に難しい」と会談を困難視。日米両政府によるگرام協定に名護市の民意に関する条項がないことなどから、沖縄の内政事情に踏み込むことにもなかりかねないと慎重姿勢を示す。

こと11月末、ウェッブ氏は、稲嶺市長の親書を携えて面談に訪れた系数慶子参院議員(無所属)ら訪米団に対し、信頼できる仲介役として「沖縄と米国の橋渡し役になろう」と協力を表明。以後、仲井真知事に

重姿勢を示す。

対する辞職勧告や百条委員会の動向など、沖縄の世論を見守ってきた。

ウェッブ氏は2007年に上院議員に当選、1期を務めた後に引退した。実直な人柄と仕事ぶりでも有力議員らからの信頼も厚い。また、海軍長官を務めた経験もあることから、12年末には国防長官の指名候補者として名前も浮上。ウェッブ氏らによる辺野古見直し提言を受け、元海軍長官で大統領補佐官(国家安全保障問題担当)も務めたジョーンス氏が「辺野古は無理だ」との見解を表明するなど、米軍幹部らの意識に影響も

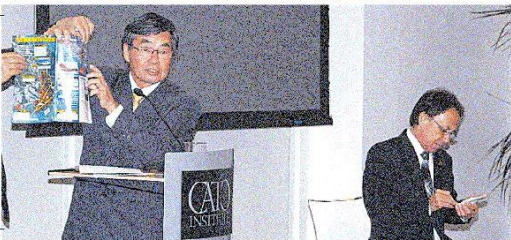
稲嶺市長に強い味方

米研究者「普天間は米本土に」

DCで意見交換

【ワシントン19日】伊集電太郎)訪米中の稲嶺進名護市長と玉城デニー衆院議員は19日、ワシントンにある保守系シンクタンクのケイトー研究所で講演した。基地の過重負担や、米兵の事件などによる人権侵害、普天間飛行場の辺野古移設に伴う埋め立てで貴重な自然が破壊されると訴えた。

米有力経済誌に移設を批判する論者を掲載したタグ・バンドー上席研究員は講演後、島の約20%が70年近くも基地で占められているのは不公平だと指摘。「米国は債務問題を抱え金がない。私の代替案



米シンクタンクで講演する稲嶺進名護市長(左)と玉城デニー衆院議員(19日、現地時間、ワシントン)

は米国本土に戻すことだ」と述べた。

同日夜、市長と意見交換した安全保障専門のマイク・モチツキ米ジョージ・ワシントン大学教授は「知事が埋め立てを承認しても、移設は政治的、技術的に難しい。オスプレイ全機を安倍晋三首相の出身地である山口県に移すなど、日米両政府は普天間の運用停止に向けて努力すべきだ」と語った。

一方、過去に移設に対して異論を唱えていた新アメリカ安全保障センター上級顧問のパトリック・クローニン氏は、移設は難しいとの見解を示した上で、知事承認や中国の脅威などを踏まえ「両政府が決定したことだ」と話した。



ジム・ウェッブ氏との会談を終えて、会場を後にする稲嶺進名護市長(左)ら19日(現地時間)、ワシントン郊外



与えた。米メディアは、16年の大統領選の民主党候補として名前が浮上しているウェッブ氏の動向を注視。複数のメディアは19日、同氏が出馬する可能性を「肯定も否定もしなかった」との記事を掲載した。オバマ大統領とも近い関係にあるウェッブ氏が、稲嶺市長との会談の内容をレビン氏らへどう伝えるかが注目される。